

## ART VILLAGE

毎年恒例の演劇セレクションから、

今注目すべき関西個性派劇団による、演劇セレクション「KAVC FLAG COMPANY 2021-2022」を今年も開催！  
詳しくは中面「KAVC BACKYARD」にて。

いろいろなイベント盛りだくさんな

KAVCの芸術の秋が幕を開けるで～！

英国の傑作舞台をKAVCシアターで

手軽に楽しめる人気の上映企画に、

「ナショナル・シアター・ライブ (NTLive)」は、英国の国立劇場ロイヤル・ナショナル・シアター  
が厳選した傑作舞台を映画館で上映するプロジェクト。KAVCでは、10月から上映を再開します！

覚えて踊って、みんなで盛り上がる

「新開地カブキモノ音頭」の発表も！

新開地商店街とKAVCを舞台に、新開地を盛り上げる「新開地カブキモノ大興行」。今年は新たな  
取り組みとして、音頭を制作しました！詳しくは中面「神戸みちくさ天国」にて。

まずは新開地商店街の名物オムライスで

老舗の洋食店・グリーン平（新開地2-5-5 リオ神戸2F）のオムライスは、  
味わい深いデミグラスソースがかかった逸品。

お腹を満たしたら、歌と踊りと演劇で

心も満たしたってなあー。しっかりと

感染対策して、この秋を満喫しようや！

ART VILLAGE VOICE — CONTENTS

## PLAY BACK

～ Go! Go! High School Project OB・OG と振り返る 13 年間～

STORY KAVCスタッフと、ときどき保安のおっちゃん物語 | STAFF's VOICE KAVCからのお知らせ

KAVC BACKYARD:

KAVC FLAG COMPANY 2021-2022 参加劇団が聞く・答える！リレー Q&A

新開地新名物 vol.14= 湊川公園の「大人禁制のふわふわドーム」 | EVENT SCHEDULE 2021.10-12 | 神戸みちくさ天国

KAVCでは、2009年から毎年、高校生を対象とした演劇プログラム「Go! Go! High School Project (通称ゴーハイ)」を開催しています。2021年で13回目を迎え、これまでに、述べ384名の高校生が参加しました。今号では、彼ら「ゴーハイ生」OB・OGにアンケートを実施し、プログラムのなかでどんな経験をしてきたのか、また、その経験が将来の生活・活動などにどのように影響したのか、当時は振り返りながら答えてもらいました。

# PLAY BACK

～Go! Go! High School Project  
OB・OGと振り返る13年間～

**Go! Go! High School Project (ゴーハイ) とは？**  
高校生のための演劇ワークショップ。スタートした当初から変わらないうちは、毎年夏休みの期間を使い、学校の校舎を超えて出会った高校生たちが一本の芝居をつくり上げること。演劇に興味を持っていての高校生であれば、未経験でも大歓迎！毎年、主に神戸市内の高校生が参加しています。

2014年には、OB・OGによる劇団「劇団エクステ」が誕生！高校卒業後もさらに演劇をやりたい！というゴーハイOB・OGを中心に、演出家・大塚雅史とともに旗揚げされた劇団。2018年にはゴーハイ10周年を記念して、ゴーハイとエクステの合同作品も制作しました。



**2009**  
「高校生×TAKE IT EASY! ゴー! ゴー! ハイスクール」  
構成: TAKE IT EASY!  
参加者: 17名+TAKE IT EASY! 4名  
ナビゲーターは劇団TAKE IT EASY!。舞台上に音響や照明の操作卓を設置し、出演者がスタッフと「見える」スタッフワークを行った。

**2010**  
「けれどスクリーンいっぱいの星 ゴーハイ版」  
作: 大塚雅史 / 参加者: 20名  
この年から大塚雅史がナビゲーターに。メタ・フィクションと呼ばれる、虚構と現実が交錯する芝居に想像力をフル稼働させて取り組んだ。

**2011**  
「BOAT～シラカンス号漂流記～」  
作: 大塚雅史 / 参加者: 31名  
ボート競技を題材にした作品。「八百屋」と呼ばれる傾斜のついた舞台の上を走り回り、棒1本をさまざまな小道具に見立てて表現した。

**2012**  
「くるーばー・くえすと」  
構成: 大塚雅史 / 参加者: 41名  
4つのチームを編成し、それぞれがエチュードを繰り返して脚本を完成させたオムニバス作品。それぞれカラーがまったく異なる作品となった。

**2013**  
「REBIRTH～月光迷宮～」  
作: 大塚雅史 / 参加者: 59名  
「ロミオとジュリエット」のセリフが取り入れられた作品。短い稽古期間ながら、独特な台詞に苦戦しつつもなんと上演に漕ぎ着けた。

**2014**  
「革命高校生 STRAWBERRY MOON」  
作: 大塚雅史 / 参加者: 42名  
舞台は70年代、学生運動高潮の盛りだくさんの公立高校。学校の体制に抗いながら自分を探求する高校生役の役を、情熱を燃発させて演じた。

●劇団エクステ誕生!  
●劇団エクステ #1 「二十世紀少女唱歌集」  
(作: 鄭義信 / 出演者: 21名)

**2015**  
「最後の淋しい猫」  
作: 北村想 / 参加者: 38名  
ゴーハイでこれまでに取り上げた作品とはまったく違った作風に挑戦。演劇の多様性を実感できる年。

**3つのポイント**  
**1**  
参加条件は、現役高校生であること。  
学校の垣根を越えて、演劇をつくり上げる！

学校の異なる、同世代の高校生とともにゴーハイに参加して、当時感じていたこと、今振り返ってみて思うことを教えてください！(ゴーハイネーム/参加年)

高校の部活動では人数が少なかったこともあり、当時はゴーハイの参加者の多さに圧倒されました。一人ひとりが個性や魅力に溢れていて、**自分も負けていられないぞ!**と常に対抗心を燃やし続けていました(笑)。(あだちー / 2012, 2013)

演劇という、漠然と遠い世界に思っていたものがグッと近くなりました。あらゆる要素が詰め込まれたものが、知らないうちに自分の近くに存在していたのだと感動しました。また、高校は違えど、みんなと一緒に熱く突き進んでいくうちに、「演劇に立ち向かう人がこんなにもいる」と仲間意識が芽生えたことも嬉しかったです。ゴーハイを通して「あの夏に勝るしんどさなんてない!」という、社会に出て変わらない強いメンタルが身につきました。(あかぎ / 2013, 2014, 2018)

高校の学習進度や個人の習いごと、バイトによって、スケジュールの変更に対応できるか、個人練習にどれだけ時間を割けるかは、人それぞれです。だからこそ、円滑に稽古ができるように調整するまとも役の大切さを痛感しました(とはいえ、精神的にも体力的にも自分のことで精一杯になってしまうので、難しいとは思いますが……!)。今はゴーハイでの経験も生かしながら、東京の美術大学で舞台美術について学んだり、自身の劇団を立ち上げたりしながら、演劇を続けています。(ちゃんまお / 2015, 2017)

高校の部活には先輩も後輩もいなかったの、ゴーハイでは演劇を通して人と関わる難しさを学びました。**学校や年齢関係なく、言い合えるって難しいんだな。**(なっちゃん / 2016, 2017, 2018)

私が参加した年は、劇団エクステの先輩方と共同で作品をつくりました。先輩のお話やアドバイスがとても新鮮で面白かったし、いただいたアドバイスは今も心に残っています。(らびい / 2018)

意識も演劇のレベルも高い人たちと一緒に作品づくりができて、本当に良かったです。今でも当時の友人との交流が続いています。(だいら / 2019)

**2**  
好き・嫌い、得意・不得意など、ゴーハイに参加したことで見えてきた、自分自身への気づきはありましたか？

人前で表現することが嫌いではなかったとわかりました。でもその反面、**考えていることや感じていることを、相手にうまく伝えられない自分にも気がきました。**ゴーハイを終えた後も、演劇体験を通して「演技がしたい! 表現したい!」という気持ちを持ち続けていて、一度は保育士になったものの、今は脚本家と役者を目指して、演技の勉強ができる学校へ通っています。(だいち / 2012, 2013)

国語の先生に音読を褒められ、文章を読むことには自信がありました。でも、演劇では、**すらすら読むだけでは棒読みになってしまいます。**どうすれば感情を乗せて台詞を読めるだろうと苦戦しました。(夕陽 / 2015)

自分自身、目立つことが好きだと思っていたけれど、どちらかと言うと**一番目立つ人(主人公)をそばで支える役まわりの方が、演劇でも実生活でも得意でしっくりくるんだな、**と気づきました。高校3年生のときにリー

**3つのポイント**  
**2**  
夏休み期間に、短期集中で演劇に挑戦。発表公演まで怒涛の約1ヵ月間を走り抜ける!

Go! Go! High School Project

ダーをやらせてもらって、私は「みんなと一緒につくり上げる」ことが好きなんだと実感。キツくてしんどくて、でもだからこそ、あんなに楽しかったんだなあと思います。(ゆづ / 2015, 2016, 2017)

ものごとに対しての視野や選択肢が広がりました。(ミュウツウ / 2016)

自分の天邪鬼な性格を把握できたことが、一番の変化。いろんな人と関わるからこそ、自分を知ることができるのかなと思いました。また、ゴーハイに参加するまで多種多様な考えを総して舞台をつくり、意見をぶつけ合ったりすることはなかったの、当時は面倒くさく感じていたなあ。今となってはそれも勉強だったんだなあと思います。「**面倒くさい**」と思う自分の**面倒くささも、理解できる場でした。**(まっつー / 2017, 2018)

今まで経験したことのない、悔しい想いや達成感を感じることができました。(はるお / 2017)

はじめて舞台を経験して、自分に自信が持てるようになりました。(茶々 / 2019, 2020)

**3つのポイント**  
**3**  
現在の日常生活、仕事、活動などに、「ゴーハイの経験が生きているな〜」と感じることはありますか？

練習がすべだどと学びました。高校1年生で参加した2013年のゴーハイは、特に参加者が多く、稽古では自分たちが出ているシーンを見られる回数に限られていたので、少しでも完成に近づけてから見せることが重要でした。でなければ、ダメ出しもアドバイスももらえないからです。以降、「**とりあえずは裏ですること、人に見せるのは練習(準備)がしてあるもの**」という意識が強くなりました。現在の仕事のなかでも、何か新しいことをはじめるときには、準備ができていないとダメだと感じます。(エーちゃん / 2013, 2014, 2015)

納得のいく舞台をつくるには、**キャスト同士の関係性が重要なのだと学びました。**ゴーハイで演技の良さに気づき、大学でも演劇をしたり、外部のオーディションに応募したりしています。(ひなこ / 2017)

舞台上上がったことで、度胸がつかえました。**発表やプレゼンで堂々と話せるようになって、楽しいです!**(ミキハウス / 2017, 2018)

**3つのポイント**  
**3**  
プロの演劇人\*がナビゲーターとして参加。演劇を通じて「本気で挑戦すること」を経験!

\*2009年にはTAKE IT EASY!, 2010年から大塚雅史、2020年からFOベレイラ宏一朗(プロトテアトル)がナビゲーターを務めている

Go! Go! High School Project

**2016**  
「ゲゲゲのげ」  
作: 渡辺えり / 参加者: 36名  
80年代の小劇場ブームを代表する作品に挑戦。小道具、美術、衣装にもこだわり、世界観を巧みに表現した。

●劇団エクステ #2 「人魚伝説」  
(作: 鄭義信 / 出演者: 23名)

●劇団エクステ #2.5 「あゆみ」  
(作: 泉幸男 / ままごと / 出演者: 7名)

**2017**  
「DOLL」  
作: 如月小春 / 参加者: 24名  
舞台が客席に囲まれる両面舞台上で上演。多方面に渡る観客を意識することに苦戦した。大きな布を畳み、広げることで場面転換を試みた。

●劇団エクステ #3 「夕ばえ作戦」  
(原作: 光瀬龍 / 脚色・構成: 大塚雅史 / 出演者: 29名)

●劇団エクステ #3.5 「バド・ドゥ」  
(作: 坂本チヲノ / 出演者: 4名)

**2018**  
Go! Go! High School Project 10周年 特別企画 ~GO-HAIM EXCLUSIVE~  
「BOAT シラカンス号漂流記」  
作: 大塚雅史 / 参加者: 30名+卒業生5名+劇団エクステ9名  
ゴーハイ史上はじめて、現役高校生とゴーハイOB・OG(劇団エクステ)の共演が実現。昼間と夜間に分けて稽古を実施した。

●劇団エクステ #4 「REBIRTH」  
(作: 大塚雅史 / 出演者: 24名)

**2019**  
「半神」  
原作・脚本: 萩尾望都 / 脚本: 野田秀樹 / 脚色: 大塚雅史 / 参加者: 24名  
演出助手にFOベレイラ宏一朗が参加。萩尾望都・野田秀樹が描く難解な世界観を、1本の紐をさまざまな図形にすることで表現してきた。

●劇団エクステ #5 「STRAWBERRY MOON」  
(作: 大塚雅史 / 出演者: 35名)

**2020**  
「進化する、変わらないもの」  
※オンライン配信  
作: FOベレイラ宏一朗 / 参加者: 10名  
緊急事態宣言によって、急遽稽古から本番まで完全にリモートに。FOベレイラ宏一朗が書き下ろした「オンライン演劇」作品に挑戦した。

**2021**  
「太陽のすぐそばで (いくつかの短編集)」  
※オンライン配信  
作: FOベレイラ宏一朗 / 参加者: 12名  
前年同様、リモートでの開催。配信ならではの映像のエフェクトを用いて、表現の幅を広げた。FOベレイラ宏一朗の書き下ろした作品を上演。

台本や段取りを覚えるのは当たり前で、必須です。それらが自分のなかに入ってはじめて役として動くことができる。だからこそ、**準備が本当に大切なのだと学びました。**(パツクマン / 2017)

最高の友人と出会わせてくれた場です。悩みや苦しみを共有し、本音をぶつけ合い、ひとつのことにがむしゃらに挑める仲間と、ひとつの舞台をつくり上げる。そんな経験をしたことが、**お互いが遠く離れている今でも、友情を育み続ける大きな要素になっています。**(サカナ / 2017, 2018)

自分は怖がり、考えすぎる人間で、稽古中に何度も失敗を繰り返して、泣いてしまうことがありました。そんなとき、とある先輩が「しばらくの間、落ち着くために泣くことは大事。でも泣いている時間を稽古の時間に変えたら、もっと上手くなるよ」と言ってくれて。その言葉は、今の自分にとても良い影響を与えていると感じます。「**悩んでいる暇があったら動こう**」「**不安に思うならもっと練習しよう**」という考え方が生まれたことで、昔よりも少しだけ強くなったかなと思いました。(文 / 2018)

**2015**  
**2016**  
**2017**  
**2018**  
**2019**  
**2020**  
**2021**



# ART VILLAGE BIG VOICE

ISSUE  
**98**  
Oct.-Dec. 2021

ART VILLAGE VOICE vol.98  
発行日: 2021年9月30日  
発行元: 神戸アートビレッジセンター  
指定管理者: 公益財団法人神戸市民文化振興財団  
〒652-0811 神戸市兵庫区新開地6-3-14  
TEL 078-512-5500 FAX 078-512-5356  
開館時間 10:00-22:00  
休館日 毎週火曜日 (休館が祝日の場合は翌日)、年末年始  
編集: レタス・エディタリング 編集: 多田智美・永江大 (MUSEUM)  
編集: 山田真由子 (MUSEUM)  
アートディレクション&デザイン: 待木健太郎・小林加代子

## KAVC BACKYARD

## KAVC FLAG COMPANY 2021-2022

# 参加劇団が 聞く・答える! リレーQ&A

アーティストと劇場が協働して舞台表現を生む「創る劇場」を目指し、2019年から始動した「KAVC FLAG COMPANY」。今年度も2021年12月から2022年3月にかけて、関西を中心に意欲的に活動する劇団が公演を開催します。ラインナップは若手からベテランまで幅広く、表現方法も多種多様。今回は、各劇団それぞれの代表者が、互いの創作に関する気になるあれこれについて、質疑応答のバトンを渡していきます。

※今年度参加劇団として2021年10月7日(木)～11日(月・祝)に公演を予定しております。  
安住の地「Iplay」は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を受け中止いたします



**聞く人**  
ホラー作品などから得たインスピレーションを、創作に生かしている劇団不労社さん。忘れられない一作は?

[StarMachineProject]  
赤星マサノリさん

トビー・フーパー監督の『悪魔のいけにえ』。最初にひとり観たときは、妙なりアルさと悪夢のような展開に戦慄しました。でも、その後大学の先輩たちと一緒に観た際は一転して爆笑に包まれ、世界の見え方が変わるような忘れられない体験に。劇中に登場する殺人鬼・レザーフェイスも、見返すたびにかわいらしく思えてくるのが不思議ですね。冗長かつ噛み合わない会話から生成される不気味なリアリティや、突如挿入される暴力、過剰さと滑稽さのバランスなど、作品づくりに大きな影響を受けました。ラストの偶発的な美しさも含め、計算ではつくりえない傑作だと思います。



**答える人**  
[劇団不労社]  
西田悠哉さん



安住の地

2017年に旗揚げした、京都を拠点に活動する劇団/アーティストグループ。音楽・写真・映像・ファッションなどさまざまなカルチャーを組み合わせた「ミクストメディア」な作品を発表。



**聞く人**  
コメディを武器に長年活躍されていますが、継続して笑いを生み出すコツや心がけていることがあれば教えてください!

[劇団不労社]  
西田悠哉さん

人間を好きでいることが笑いに繋がると感じます。どれだけ真面目に生きていてもどこかに抜けがあるのが人間で、それがあから好きになれるし、面白い瞬間もたくさん生まれる。その面白い瞬間をたくさん並べて、コメディにするのがとても楽しいですね! あとは、自分のなかに常識や決まりごとをなんとかなく、ちゃんと持っておくことも大事だと思います。そこからほみ出したときに面白さが出てくるので、そのためには枠組みをきちんと持っておかないと、と。もーほんと、真面目じゃないとコメディはできないですね! なんてことや!!



**答える人**  
[かのうとおっさん]  
嘉納みなこさん

「この人に出演してもらえたら嬉しいなー」と思う人を教えてください。また、どんな作品にしたいですか?



**聞く人**  
[かのうとおっさん]  
嘉納みなこさん

卑劣呼ばれたい。演出にも協力してもらって、当時の宗教の匂いが劇場に充満するような作品をつくりたいです。音楽も生演奏で豪華に、バンドと和楽器をコラボさせたり、現代的な空気感も出しつつ、演劇というよりダンスっぽい感じがいいかもしれません。いくら考えてもまったく具体的なイメージは浮かびませんが……確実に今無いものが観られます。きっと面白くなると思います。そもそも歴史の上に名前が残る人物ならみんなえげつない個性を持っているので、誰でも楽しい作品がつくれそうな気がします。



**答える人**  
[小骨座]  
浜間空洞さん



劇団不労社

2015年に旗揚げ、リアリズムをベースに日常の光景から超現実的次元へ物語をスライドさせ、その縦目から覗いて見える歪な人間模様を滑稽かつグロテスクに描く。

かのうとおっさん



1999年、高納みなこと有北理恵により結成。独特の台詞まわし、印象に残るヴィジュアル、笑いをベースに人の生きざまを鋭く描く作風は、小学生から60代まで広く支持される。



**聞く人**  
[小骨座]  
浜間空洞さん

創作活動において影響を受けた劇団や他分野のアーティストなどはありますか?

## 今年度の参加劇団

「劇団」という体制をとっている集団をととても尊敬しています。演劇界では、プロデューサーや演出家や演者などの参加者を集める「プロデュース公演」として作品をつくるケースが増えていきますよね。でも、大変なこともありつつ、作品を重ねるごとに技術が蓄積され、強度と豊かさが増す「劇団」だからこそできることが多いと思います。今回KAVC FLAG COMPANYで上演予定だった「Iplay」は、スポーツを題材にした作品。関西でスポーツ演劇と言えば「ランニングシアターダッシュ」ということで、稽古中、大塚雅史さんの熱い演出を度々思い出していました。



**答える人**  
[安住の地]  
中村彩乃さん

小骨座

コロナ禍で改めて見えてきた、映像・演劇の魅力を教えてください!



**聞く人**  
[安住の地]  
中村彩乃さん

お互いの距離が重要になっている今、映像の力で互いの距離を縮めようと試みる。それから劇場体験の豊かさ。コロナ禍では、たくさんの劇団が映像を使った挑戦をされましたよね。私もマルチスクリーンやバーチャルな空間設定で配信をしたり、複数台のプロジェクターやカメラを使用して舞台を演出・撮影したりし、映像の可能性を感じました。しかし、本来の演劇の魅力は、特定の場所で演者とお客様が身体を向かい合わせ、同じ時間を共有すること。今はそれがまだ難しい状況ですが、想いを持って挑戦し続けることが、これからの演劇の面白さをつくっていくんじゃないかなと思います。



**答える人**  
[StarMachineProject]  
赤星マサノリさん

## StarMachineProject



映像と舞台芸術の融合、テクノロジーと身体性の融合を目指し、映像作家やエンジニア、ミュージシャン、アーティストと協働しながら企画・制作に取り組む。

## KAVC ゆかりのアーティストが選ぶ

# 神戸みちくさ天国

神戸アートビレッジセンターで日々開催される、さまざまな催しごと。合わせて「せっかくならこも行ってき〜!」と背中を押したい、魅力的な道草スポットをご紹介します。

title: 三野野郎 / illustration: 森 温

## よってらっしゃい みてらっしゃい 新開地カブキモノ音頭で盛り上がる 「第四回 新開地カブキモノ大興行」を観る

2018年から毎年行っている「新開地カブキモノ大興行」。山猫団、三田村打団?、新開地舞踊劇団が、新開地のまちを活躍の場として、商店街を大行列で練り歩きます。翌日は、KAVCホールでダンスパフォーマンスを中心とした本公演を開催。どちらも見逃せません。さらに4年目となる今年は、「新開地カブキモノ音頭」のお披露目も。当日はぜひ一緒に踊って楽しみましょう。今回は新開地舞踊のおすすすめスポットを、KAVCの常連アーティストである森 温 (MORIHARU) さんにご紹介いただきました。新開地カブキモノ大興行で盛り上がる前後に、ぜひ足を運んでみては。



第四回 新開地カブキモノ大興行  
商店街大行列 日時: 2021年11月13日(土) 14:00~ 会場: 新開地本通り商店街 ほか  
本公演 日時: 2021年11月14日(日) 14:00~ 会場: KAVCホール



新開地カブキモノ音頭はこちらから。みんな覚えて、一緒に踊ろう!

# 新開地新名物

vol.14

湊川公園の「大人禁制のふわふわドーム」



ふわふわドーム利用可能年齢 3-12才  
子どもの盛り上がり度 ★★★★★

湊川公園を北へ少し歩くと、兵庫区役所前に突如出現するのは柔らかなて白い山? 昨年8月に新設された、このトランポリン遊具「ふわふわドーム」を目当てに、週末は多くの親子が訪れ賑わっている。

大人だってふわふわしたい! しかし立ち足はだる利用可能年齢の壁。楽しそうなお子さまたちが楽しんでいます。楽しみましょう。

推薦者  
河合なお[アシスタント]

## その前に KAVC1階にある「はっちゃんの台所」でお腹を満たす

KAVCの1階にあり、利用者の方やスタッフはもちろん、地域の憩いの場となっている食堂。手づくりのおかずが魅力的な日替わりのお弁当は、時には蓋が閉まらないほど(!) たっぷりおかずが詰まっています。まさに練り出す前に、まずはしっかり栄養補給を。

はっちゃんの台所  
神戸市兵庫区新開地6-3-14 KAVC 1F

森 温さんからのコメント  
コロナ前は、ここで弁当を食べた後午後の制作に向けてエネルギーをチャージしたり、制作後に友だちとコーヒーを飲んで一息ついたりと……。いろんな思い出が詰まった場所です。



## その後

## 歩きまわった後に、 滋味深い「はさみ焼き」を楽しむ

商店街から程近い飲食街・福原に甘く香ばしい香りを漂わせるのは、昭和21年創業のはさみ焼き専門店。小麦や米粉はすべて国産にこだわり、おいしく身体にもやさしいお菓子を購入できる。オレンジやキウイを挟んで焼いたフルーツワッフルは、お土産にも◎

株式会社 梅香堂  
神戸市兵庫区福原町10-2

森 温さんからのコメント  
オリジナル商品「CARAMERUWA」のパッケージと包装紙をデザインさせていただきました。たくさんの種類の焼印を見せてもらったことが印象に残っています!



同じデザインでも染めることで印象が変わる

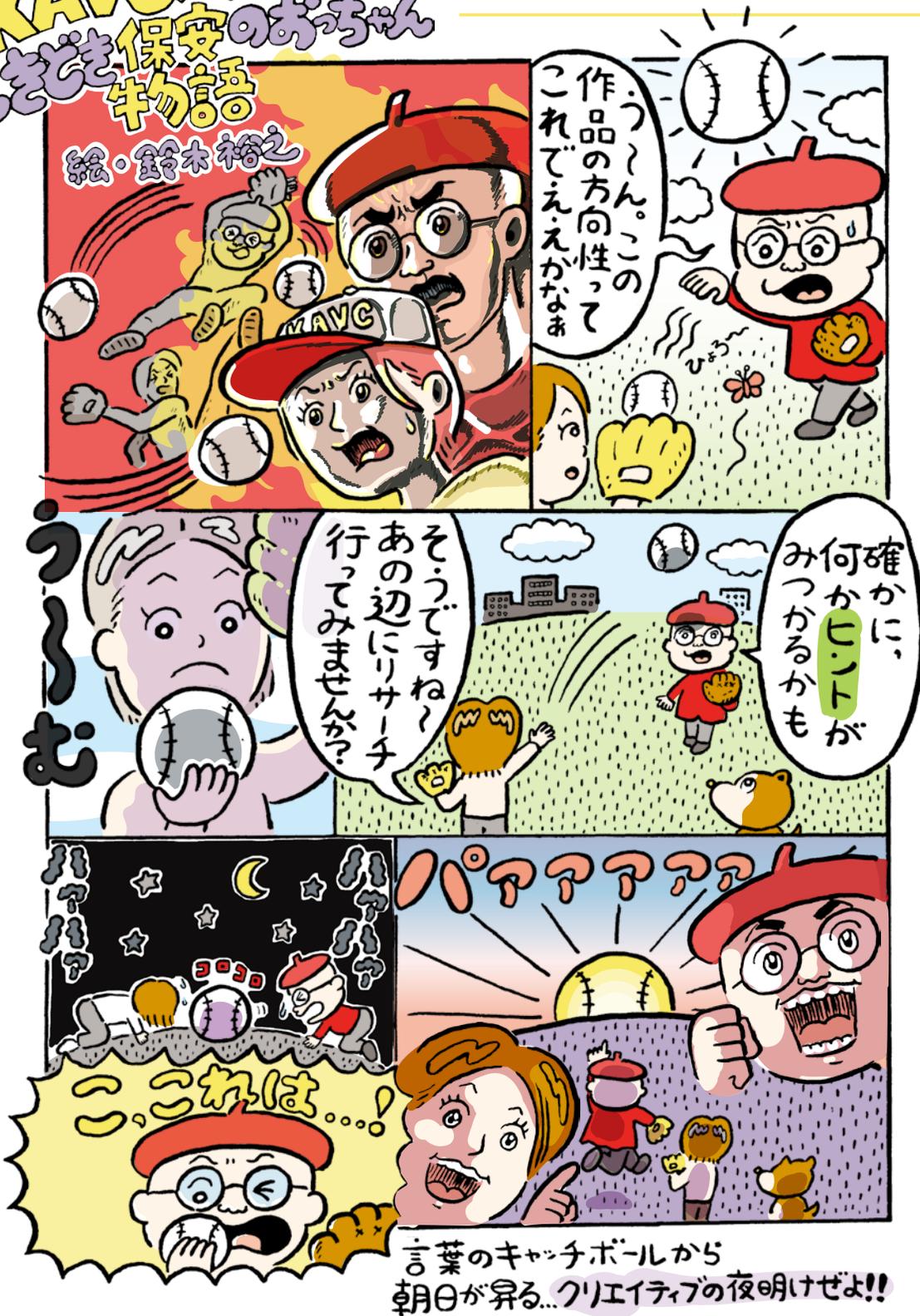
今号のレナー  
池田まきさん [アーティスト]  
「ひらめきのたね」に輝いていた「型染め」のワークショップを行いました。型染めは江戸時代から続く伝統的な技法のひとつで、洋型紙という厚みのある紙をワッターで機械を切り抜いた型紙でつくり、布の上に重ね、もち米や米ぬかを糊状にして糊を塗り、染める技法です。多くの工程を必要とする手間暇のかかる技法ですが、ワークショップではその工程の一部である染めの工程を体験していただきます。実は、KAVCさんでのワークショップはこれで2回目。1回目(2016年)の夏に開催しました。1.「somebody」(そめて)の活動を始めた年で、「型染めワークショップ」というメールを送ったことでも覚えていて、再び縁があり2回目の開催です。ところが、その時は「型染めワークショップ」が今ほど盛況というわけでもありません。今回はコロナ禍ということもあり、人が集まらなかつたのか心配もありましたが、たくさんの方に参加してくれました。最初は緊張した面持ちでしたが、徐々にリラックスして、好きな色の染料を選び、こだわりの型紙を染める。その過程が、小さな職人のようでした。型紙は私が普段使っているデザイン3種類から選んでもらいましたが、染める色によってまったく違った印象になりました。染めた後、型紙を剥がすと、染めた部分が浮き上がります。型染めの工程のなかでもっとも楽しい瞬間です。神戸のアートで洗いを洗ったハンカチを干し、ずらりと並んだたくさんの色とりどりのハンカチを眺めていると、色とりどりのハンカチを眺めていると、各ご自宅へお送りさせていただきます。もう少しで子どもたちの元にも届くかな? と思います。ぜひ、このワークショップがきっかけで、型染めという伝統的な技法に興味を持っていただけたら、本当に嬉しいです。

## KAVC REVIEW

今号の取り上げ作家は、  
ひらめきのたね vol.8  
「池田まきさん」といっしょに  
型染めハンカチをつくらう!

# KAVCスタッフと、 ときどき保安のおっちゃん ときどき牛物語

絵・鈴木裕之



KAVCスタッフと、

ときどき保安のおっちゃん物語とは……

本館の隠れた主人公・保安のおっちゃん3人衆のかたわらで、日々業務に励むKAVCスタッフ。彼らが見つめる新開地とKAVCの日常から、さまざまなエピソードを紹介していきます。

作・画 鈴木裕之さん

本誌を機会に新開地デビューを果たした大阪出身・在住のイラストレーター。雑誌やCDジャケット、広告ほか、2020年からオンライン似顔絵屋「LUX」(lux-lux.jp)などで活動中!

## KAVCのいま

7月に最終審査となる公開プレゼンテーションが終わり、「ART LEAP 2021」の出演作家が船川翔司さんに決定しました。2018年からスタートした「ART LEAP」も今年で4年目。作家が変われば、制作スタイルはもちろん、リサーチ活動への取り組み方やそれに合ったコミュニケーション方法など、すべてが毎年異なります。「ART LEAP」は、作家とスタッフの「協働」が特徴です。そこで私がいつも意識しているのは、作家にとって良き伴走者になること。程良い距離を保ちながら、スタッフとして何ができるのかを考えて試行錯誤を重ねています。リサーチに出かけた帰り道や、ミーティングで煮詰まったときに交わした雑談のなかに、その後の作品制作につながるヒントが隠れていたこともありました。これまでを振り返ると、そうした作家との対話が大切なプロセスであったと実感しています。今年度の出演作家が決まり、いよいよ来年2月の展覧会に向けて動きはじめます。これから約半年間のコミュニケーションが展覧会にどうつながっていくのか、私自身、緊張感がありながらもとても楽しみです。

執筆者

岡村有利子 [美術担当]

最近、新しいのこぎりを買いました。切斷ストロークがスムーズで切れ味に感動! 新しい道具を持つとキメキメします☆

### おことわり

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う  
対応について

新型コロナウイルス感染拡大の今後の動向によって、臨時休館の他、自主事業の中止もしくは延期が想定されます。最新状況につきましては決定次第、HPや各種SNS等でご案内いたします。最新情報の掲載ページはこちらから



## STAFF'S VOICE

KAVCスタッフが日々活動するなかで、興味を持ったものごとをざっくりと紹介していきます。オススメイベントの詳細な情報はWebサイトにて!

### VOICE 01

7月3日(土)にギャラリーで開催した、はじめてのシルクスクリーン「カタチプリントで顔ハンカチをつくろう! 2021」に私たちスタッフも参加しました。この「カタチプリント」のワークショップでは、すでに版やインクの準備が整えてあるので、あとは好きなカタチの版を選んで、色を載せるだけ。プリミティブなカタチを「あでもない、こうでもない」と、刷る位置を考えながら過ごす時間はあつという間。普段の頭の使い方とは違って、とても楽しい時間でした!



射場亮

[総務・施設運営担当]



来館される方へのあいさつを意識しています。そして、機会があればお話ししてみることも。先日、ギャラリーを利用する方にお声がけしたところ、KAVCが建つ前からこの地域の様子をご存知で、KAVCを取り巻く環境の変化を伺うことができました。利用していただく方との関係性から見えてくる「KAVC」というのも、施設を運営していくにあたって大切にしたいと思います。

### VOICE 02

横山春乃

[総務・施設運営担当]



## 神戸アートビレッジセンター

www.kavc.or.jp

指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団

〒652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-14

TEL = 078-512-5500 FAX = 078-512-5356

開館時間 = 10:00-22:00 休館日 = 毎週火曜日

(火曜が祝日の場合は翌日)・年末年始



アクセス  
 ・神戸高速「新開地駅」8番出口より徒歩約5分  
 ・JR「神戸駅」ピエラ神戸口より徒歩約10分  
 ・神戸市営地下鉄「湊川公園駅」東改札口より徒歩約15分